

# 中央大学学員会 第26号 49年白門会会報

発行日 平成25年6月8日(年2回発行)  
発行人 山崎 厚太  
発行所 中央大学学員会49年白門会  
印刷所 (有)東光美術印刷

東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学駿河台記念館学員会事務局

49年白門会のホームページ → <http://www.gakuinkai.com/hakumon49/>

49会のホームページから「会員の部屋」に入る際のユーザー名は49nen、パスワードはhakumonです。

49年白門会のメールアドレス → [hakumon49@gakuinkai.com](mailto:hakumon49@gakuinkai.com)

会員の皆様の登録・変更をお願いします。PC、携帯でも可能です。



(題字・葛西聖司)

## これからやってみたくこと 決めたこと

49年白門会会長 山崎 厚太



大学を卒業してから39年たった。還暦を過ぎこれからやってみたくこと、何をやるに付け、自分が40年にならないうちに経験したことを、体につけたものを土台にして何かできないかと思つた。

大学を卒業してから39年たった。還暦を過ぎこれからやってみたくこと、何をやるに付け、自分が40年にならないうちに経験したことを、体につけたものを土台にして何かできないかと思つた。経験した仕事を棚卸ししてみると、卒業後三菱銀行に入り40歳ぐらいまでの仕事は貸付と法人新規顧客の獲得が主なものであった。東京銀行と合併した時、本部で店舗の統廃合の仕事をし、その後は、役所との取引や富裕層の相続対策などに関わった。銀行は51・5歳で退職となるので、今は関連のカード会社にいる。経験した仕事の中で印象に残っているのは、知的障害を持ったお子さんの親御さんからの相談だった。自分が死んだ後子供のために財産管理を安心して任せられるところはないだろうか。初めて相談を受けたのは約25年前、その後、転勤する支店毎に同じような話が有った。当時銀行として出来るような制度はなかった。そのままだなっていた。15年前に成年後見人制度が出来た時は、良い制度だと思つたが、受け入れ側の態勢がそもそも出来ていなかったような気がする。当時、要は他人からお金を預かって管理するのだから、銀行関係が分らないとスムーズに行かないだろうと思つた記憶がある。最近になって知的障害を持った親御さんからの相談に何も対応できなかったと思ひだすようになり、それであれば、銀行員の経験から、自分も会社を離れた後成年後見人をやってみようと思つた。ただそれには相応の法律知識もいるので、今から準備をするところである。

## 家族に負担をかけない

次に決めたこと。これは自分の身の回りのことである。私は常々人間の生物年齢は1・2・3歳だから、60歳はまだ半分だと皆さんの前で話している。しかしながら、いつ何時寝た

きの介護状態になるか分からないので、そうなったときのことを文章にして署名捺印の上、家族に渡してある。第一には延命治療はする必要はないということ。治療して治るのであればともかく、意識不明のまま家族の負担をかけることはないというのが私の考えである。

第二には、葬儀は不要、直葬でよい。すなわち死んだら一晩自宅まで通夜をし、そのまま火葬にしてこれと。仏教徒ではないので戒名はいらない。親の付けた名前を墓石に刻めば良い。自分の考え方が少々過激かと思つてインターネットで調べてみたら、直葬の比率は予想以上に増えている。ただ、家族が恥をかかないように私の意思とすることを文章に残している。還暦を超えたら家族の負担をなるべく減らすことを考えるようになってきた。

49年白門会は同じ世代の集まりであるから、皆さんの意見も一度聞いてみたいと思つている。いずれにしても同期会は打算なく色々なことを話せると思つている。ありがたいことである。

# 友へのメッセージ

## 大川小学校の悲劇を知って

### いますか？

藤本 真也 (法) 千葉県 習志野市

今年の3月17日私は宮城県石巻市の大川小学校の前に立った。東日本大震災での大川小学校の悲劇については、新聞やテレビの特集番組その他の報道で、ある程度の情報をお持ちの方も多いと思う。私もそうした情報の断片的知識から、何故先生の指示で学校に残った生徒78人のうち、たった4人しか助からなかったのか？ 逃げるところがなかったのか？ 時間があったのに何故逃げられなかったのか？ 頭の中で理解できない疑問が渦巻き続いていた。

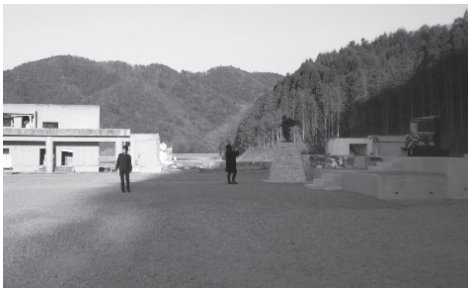
東日本大震災からちょうど2年。大川小学校だけは自分の眼で見てもかなければならないと思い、法政大学通教で史学を学ぶ熟年5人組(女性3名、男性2名)で2泊3日の行程で石巻周辺の被災地を廻ることにした。何故大川小学校は大きな犠牲を払うことになったのか？ ということを現地視察で少しでもその理由を解明し今後の教訓にしたいという思いがあった。

皆さんは知っているだろうか？ 大川小学校は海拔1mしかなく、河口からは4kmあるが北上川に隣接す

る低地に建つ学校で、津波が川を遡って溢れたら誰が見てもひとまわりもない場所にあることを。学校に隣接して子供たちがシイタケ栽培をしていたこともある裏山があり、低学年の生徒でも40秒で登れるにもかかわらず、51分間も校庭に待機させておいたということ。教頭が聞いていたフジオからは、大津波警報が6m、その後は10mの予測に上方修正され、市の広報車も「大津波警報」と「高台への避難」を呼びかけながら、学校前の県道を往復していたので教職員も大津波警報が出ていることを知っていたことを。生き残った子供の証言によれば子供たちは「早く山に逃げよう」と

「死ねばや」と先生に懇願したのに受け入れられず、山に逃げた子供も教諭から「戻れ！」と怒られ連れ戻されたということ。その結果として子供たちのほとんどが亡くなってしまったというのを。現地に行ってみればよくわかるが大津波から逃げられるところは裏山しかない。裏山に登る以外、助かる道はなく、校庭にいたら助からないことがよくわかる。

大川小学校の先生方は、厳しい予測を踏まえた避難指示をすべきだったにもかかわらず、10mの津波なんてここまで来るはずはないという甘い予測を捨てきれなかったのだ。何故山に逃げるといふ行動がこれなかったのか？ 疑問が解けない。我々はこの中から教訓を得なければならぬ。大津波は来るまでに若干の時間はある。迷わずすぐに所定の避難場所へ避難すれば助かる。だから日頃津波の時の家族の避難場所を決めて周知しておくこと。但し避難場所を決めてあるのに甘い予測をして避難せず大災害になることがあるので、津波については意見が分かれた場合、一番厳しい予測に基づいて迷わず避難することが大事だとつくづく考えた。



\*右側の裏山に逃げていれば助かっていたのに……。

## 楽苦我喜

吉江 信博(商) 岩手県盛岡市

### 「震災から2年、被災地のいま」

新幹線の架線は激しく金きり音を立て、今出てきたばかりのビルは大きく揺れ、駐車場の車はクラクラ、途端全ての電源が遮断、東日本大震災の始まりでした。3日間停電で、三陸の惨状を知ったのはそのあとでした。盛岡に住んでいる私にとって、地元三陸の大津波はショックでした。震災前年、車で回った三陸地方、特に故井上ひさし原作のひよっこりひょうたん島(蓬萊島)や吉里吉里国のある大槌町の海岸線、その他三陸沿岸地区は元々何も無かったように、土台を残して全て流されてしまいました。

あれから2年、被災者は体育館から仮設住宅生活に、ガレキの町は荒涼とした平地に変わり、山間部にはトタン張りの仮設住宅が所狭しと建っています。復興町作り計画もやっと出来上がってきましたが、代替地問題、建設・土木作業員不足と工賃高騰で計画は思うように進んでいないのが現状です。ボランティアや各種支援活動、募金等をはじめ減少了しました。仮設住宅住まいの長期化は、健康面特に精神面でダメージが大きく、近所・隣人同士のいさかみや自殺者の急増をもちあわせており、復興への時間的余裕はありません。震災直後の1年程は震災の話題を避けていた被災者ですが、今は真正面から向かい合い、自らの手で立ち上がろうとしている人が増えています。仮設店舗で商売を再開して頑張っている人もいます。

私たちに出来ることは、震災直後炊き出し派遣や募金でしたが、現在は側面支援が主です。所属ロータリーを通じて被災地小中学校支援、漁業関係者への作業着や老人への防寒着の寄付、個人的には被災地を訪れて、被災地の地元食堂利用や新鮮な魚介類購入などが、今出来る一番の支援であり、支えになっていると思っています。

同期会メンバーの方々にも、我国で起こった未曾有の東日本大震災をもう一度振り返り、出来れば被災地を訪ねて新鮮で美味しい魚介類を食べ、被災者と言葉を交わすという支援を行って頂ければ、被災者もどんなにか心の支えになると思います。

## 懐かしい顔も参加！新年会

2013年  
1月26日(土) 福松征男(法)

北海道や日本海側では大雪や強風による荒天との気象情報の中、東京はヒリヒリと寒くても穏やかな冬晴れの1月26日に、49年白門会の新年会が、東京・銀座の「Sun-mi高松」で開催されました。

定刻の12時に中島幹事長の司会で開会。山崎会長の「今年の参加者は35名を越えました。年々増えてきています。これからも参加者が増えて楽しい会にしていきたいと思えます。」という挨拶に続き、宮川副会長の乾杯の音頭で宴会がスタートしました。

殆どの人が昨年が続いての出席で

## 被災地復興支援一泊旅行 中島章夫幹事長

会員からの要望があった「一泊旅行」企画を、東北の震災復興応援ツアーも兼ねて初めて行った。参加者は高橋(法)・高木(理士)両夫妻、久しぶりの参加の田中氏(経)を含め9名となり、第一回の宿泊旅行としては、まあ上々の人数かと安心した。

3月9日・土曜日朝、東京駅鍛冶橋駐車場に集合。「スパリゾートハワイアンズ」の送迎バスは、何と7台。1台づらいいと思っていた一同、皆びっくり。定刻10時出発、一路福島県いわき市の「スパリゾートハワイアンズ」に向かう。午後1時過ぎに到着。ホテル内は、人、人、人で

すが、増澤繁さんが7年ぶりのことでした。遠路は、名古屋の加納幹郎さんと吹雪の新潟から松平守さんの二人。病気でリハビリ中の増田勝美さんと村岡潤さんも元気な姿を見せていただきました。

食事もひと通りの出揃い、お腹を満たし、アルコールも全身に回った1時半頃から「じゃんけん大会」が始まりました。オークションに代わって企画された昨年の「じゃんけん大会」は大好評で、今年も実施されました。じゃんけんをして勝った人が番号札を引いて、引いた番号の景品を頂くという方法で、山崎会長、中島幹事長等を相手にじゃんけんをや

あふれ、一回再び驚嘆。

午後6時から、個室での懇親夕食会。美味しい料理に舌鼓を打ちながらの楽しい夕飯となった。そして、8時半からウォーターパークビーチシアターでのお待ちかねの「グランドポリネシアンショウ『イアム・未来へ』を観劇。1時間のフラダンス、豪壮なファイアーダンス等々のショウを堪能して、夢心地で男性軍の宴会部屋に戻り懇親会。多岐多方面にわたっての話題となった懇談は、いつもの懇親飲み会では味わえない楽しい一時。絆が築かれ、話が尽きなかったが夜11時半にお開き。

還暦を過ぎた大の大人でも、勝負は真剣そのものです。今年も昨年以上に盛り上がった30分間でした。今年の景品は事前に会員に持ち寄りのお願いをしてあったこともあり、ワイン、地酒、パジャマ、テレフォンカード、クオカード、コップセット、オルゴールなど30点の提供がありました。

2時過ぎにお開き。校歌と応援歌を全員で合唱。山崎副会長の「参加者のご健康と会の発展を祈念して、「二十締め」でお開きとなりました。最後に記念撮影をしましたが、いつもの高橋カメランが出張で参加されず、シャッターはお店の和服を着た御嬢さんをお願いしました。

2次会は、銀座ライオンの「かこいや」に、12人が参加しました。

翌日は朝食後9時に、今回の一泊旅行の趣旨である「元気ふくしま応援ツアー」へ出発。ツアーのはじめは、地元の名店3店舗見学。薄皮まんじゅうの「いわか湯本柏屋」、次に、漬物製造直売店「西野屋食品」、最後はかまぼこ製造直販店の「かねまん本舗」を見学し、お買い物でさまざまな地元への復興支援をし、被災地・薄磯地区の本格磯料理専門店「山六観光本店」に向かった。

## ゴルフ日和の第8回ゴルフ会

2013年  
4月5日(金) 小澤龍次(商)

例年になく早咲きの桜が既に散りかけていた4月5日(金)埼玉県の飯能パークカントリークラブにて、第8回49年白門ゴルフ会が開催された。その日は気温20度超の4月初旬としては暖かくスッキリ快晴でまさに絶好のゴルフ日和だった。

参加者13名が集合し、和やかな中にも真剣にスタート。このゴルフ会のルールは、ハンデ戦(初回は優勝なし)だが、優勝するとハンデカットが厳しく、みな等しく優勝のチャンスが巡ってくるシステムになっている。「今回ぞ、優勝！」と密かな野望を抱いてプレーに臨んだのは私だけではないはずだ……結果は3位。優勝は、このゴルフ会会長の高木さん。準優勝は、今回私がこのゴルフ会に誘った「かもしかス……

りて、山六観光では、被災時の生々しい写真が展覧され、あらためて被害の大きさに、言葉は全くなかった。昼食後は、震災の展不会場を見学。被災時のパネルや、避難場所での段ボール部屋を再現したコーナー等があり、よくこんなところで生活が出来たものかと驚く。また、津波で家を失い、亡くなった母親を2日間探し続けた女子中学生が、配付されたソフトボール大の塩にぎりをもらって食して、はじめて涙したというコ

キークラブ」で仲間だった柳澤敏男君。全体では、スコア80台5名、90台1名、100台7名とハイレベルな戦いだっただ。

この会の素晴らしい点は、参加者が中大の49年卒業生であるということ。それが参加条件なので当たり前なことだが、顔を合わせると妙な懐かしさと親近感がわき会話が弾む。前回初参加の私も、最初こそ緊張していたがその温かな雰囲気ですぐうちとけプレーを思う存分楽しんだ。「ゴルフは人生と同じ。思い通りにいかないからこそ面白い」ゴルフ歴20数年。人生山あり谷あり。ゴルフライフ山あり谷あり。これを誰とにも過すか……49年白門ゴルフ会でも新たな素晴らしい仲間と出会えた。今後も、毎回参加を目指すとともに私の交友範囲内ではあるが会員増に貢献したいと思っている。

メントと展示のおにぎりを見て自然と涙してしまった。この後、1階の魚市場でのお買い物、またささやかな復興支援をする。

午後3時に帰路についた。高速道路は渋滞にぶつかり、予定の6時より約1時間遅れて東京駅着となった。

先般右手在住の吉江氏(商)も「震災復興応援は、まず被災地に行ってください」と言っていました。正しその通りだと思います。一人でも多くの人が被災地に行って支援しましょう。

# 2013年度 総会のお知らせ

「49年白門会」の2013年度の総会が開かれます。皆様の楽しいサロンのようになりませうように、是非ご出席お願いいたします。

日時・平成25年7月6日(土)

午後12時(11時半より受付)

場所・中央大学駿河台記念館

レストラン・プリオール

(東京都千代田区神田駿河台1-1-5)

懇親会・12時半～2時半 プリオール

会費は6千円です。

## 葛飾柴又 散策

2012年  
11月10日(土)

昨年3月に東日本大震災翌日というところで中止になっていた葛飾柴又散策に行ってきました。当日は天気は良くまさに散策日和でした。午後1時前京成金町線の柴又駅に降りる

と、旗の代わりに中大のCマークの野球帽をかぶった小澤事業部長が待っていました。次の電車で来る入まで待って老舗の草団子屋、ウナギ川魚料理、せんべい屋、神仏員店、お土産物屋など手作りの店で賑わう参道を、草団子を頬張りながら帝釈天に向かいました。

帝釈天にお参りし境内の猿回しを見学、矢切の渡しへの渡し場を眺め、30年前にはなかった寅さん記念館に入りました。懐かしくじっくり見ながら懇親会場に向かいました。

山崎会長をはじめ14名の参加者でもんじゃ焼き「と陸」で楽しい懇親会になりました。4時半オードレストップまで飲み放題、もんじゃのお代わり自由でビール、ハイボール、梅酒のロックと皆さん5、6杯お代わりは当たり前で盛り上がりました。午後5時前、中島幹事長の一本締めで解散。みんな満足して帰るに足る帰路につきました。

(広報部)

## 編集 後記

### くら咲る そして散る

今年のサクラは開花が一段と早く、花見の準備をする間もなく花散らしの雨の中を去って行った。サクラは冬から春へのほんの一瞬だけを生きているように思える。ほかの季節にはその存在すら忘れられてしまっているようだ。普段はほかの木々と同化して雑木林や山の緑の一部になって謙虚に修まっている。春四月はサクラに限らず芽吹きの

時だが人の世もこの時季騒々しいほどにあちこちで新芽が駅前や電車の中で芽吹きを立っている。それに比して、長く雑木林の一角や山肌の緑となっている私はいえば花も咲かせず枯れもせず、大きな環境の変化を受けることもなく一本の雑木として風に揺られている。こんな時季、ふと目を自分の周りにも目を向けてみたくなるもの

だ。よく見ると49年会には芽吹きや脱皮に日々忙しんでいる木々も随分と居る。何か打ち込むとか新しいことに興味を持つとか私の「望む力」と「やる力」が弱いのかどうかを調べることにしよう。これも打ち込むことのひとつになるのだろうか。そもそもそれが私の勘違いなのだろうか。

(小林隆宣)

## 2013年度 会費納入のお願い

13年度の活動期間は2013年4月1日～2014年3月31日までです。会費はなるべく同封の、手数料

料を49会が負担する郵便振替用紙で7月31日までに納入してください。総会の会場でも納入できます。その後の未納の方には随時お願いのお手紙を差し上げる予定です。会員皆様のご協力をお願いいたします。(会計部)

## 2013年度会費納入のお願い

49年白門会は会費によって運営されています。2013年度の会費を納めてくださるようお願いいたします。2013年度の活動期間は2013年4月1日～2014年3月31日です。年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

①郵便振替 (手数料は49会が負担します。)

振替口座番号「00180-3-196081」

口座名称 「49年白門会」

②銀行振込 (振込手数料が必要です)

銀行名 三菱東京UFJ銀行 調布支店 普通預金「1979382」

口座名 49年白門会

## 49年白門会事務局

\*住所変更、新規会員紹介の御連絡、会報への御意見などをお寄せください。

49年白門会幹事長 中島章夫

192-0393 東京都八王子市東中野742-1

中央大学 映像言語メディアラボ事務局

Tel 042-674-2750 Fax 042-674-2753

E-mail akio@tamajs.chuo-u.ac.jp

※メールアドレスの登録・変更は hakumon49@gakuinkai.com にご連絡ください。

## 事業部揭示板

2013年度の行事予定です。時間や集合場所等の詳細は未定です。実施が決まりましたらホームページやメールでお知らせいたします。

◎総会・懇親会

7月6日(土)

◎生麦のキリンビール工場見学

8月10日(土)

◎ホームカミングデー

10月27日(日)

◎NHK見学・懇親会

11月23日(土)

◎新年会

平成26年1月25日(土)

◎新宿御苑で観梅会

平成26年3月8日(土)

## 原稿募集

次号掲載の「会員からのエッセー」では「これからの生きがいは○○です」というテーマで原稿を募集いたします。

ポランティア、旅行、恋、孫等、還暦・定年後の生きがいを400字前後で事務局まで送ってください。締め切りは10月末日です。

広報部からメールで依頼することも有りますので、その際はご協力お願いいたします。